

J1A A通信

2008年9月8日(月)発行

送信所は文化遺産

市長、議長、市教委に保存要望

9月5日

今年8月で発足1年を迎えた「検見川送信所を知る会」(代表・仲佐秀雄山梨英和短期大学名誉教授)が主催する第3回イベント「検見川送信所、文化遺産宣言」が8月30日、千葉市の検見川公民館で行われ、約80人が参加した。イベントでは検見川送信所の設計者 吉田鉄郎の生涯を描くドキュメンタリーの上映や、元職員岩佐悦次さんの講演などが行われた。最後に、千葉市に対し、保存、利活用及び周辺環境の整備を求める要望書案が全会一致で採択された。これを受け、知る会は9月5日に千葉市役所を訪れ、千葉市長、教育委員会委員長・教育長宛に同要望書(裏面に記載)、千葉市議会議長に同様の陳情書を提出した。

知る会発足1年

「知る会」として3回目となるイベントには過去最高の80人が来場し、会場は熱気に包まれた。この中には川岸俊洋市議(公明)、熊谷としひと市議(民主)、さんべい輝枝市議(民主)、長谷川ひろ美市議(市民

満場80人が拍手で採択

8月30日のイベントで

ネット)、山本直史市議(新政ちば)と会派を超えた市議の姿もあり、欠席の川村ひろあき市議(自民)からは祝電も届いた。第1回は日本初の国際放

送が77年前に行われた昨年10月27日、月見しながら送信所を語るという「ほぼ満月たただの月見@検見川送信所」。第2回は今年2月23日、建築史家の倉方俊輔さんを招いた「送信所ナイト」。今回は、検見川送信所「文化遺産宣言」と銘打った。「知る会」は昨年8月、「歴史的な意味を持つ建物が荒廃している姿になって

いるのはもったいない」と市民有志が学習会として発足。まずは自身が送信所の

千葉日報、千葉テレビが紹介

イベントの様子は8月31日付の千葉日報、9月1日の千葉テレビで報じられた。千葉日報は「送信所の魅力をPR 保存を訴え市民がイベント」という見出しで報じた。

千葉テレビでは看板番組のひとつ県内ニュース番組「ニュースCマスター」(月

「金曜午後9時」の「県内スケッチ」のコーナーで速報。仲佐代表と日本建築家協会関東甲信越支部の安達文宏さんのインタビュウを交えて、約1分半、紹介した。

千葉テレビ「ニュースCマスター」の画面より



歴史、役割を知ると、手探りの中、スタート。第1回イベントで建築家、送信所職員、地元の賛同を得て活動を広げた。

3月には検見川町連合町内会が千葉市に対し、要望書を提出。6月には国際的な建築団体「ドコモモ・ジヤパン」が重要モダンズム建築に選定。7月には日本建築家協会関東甲信越支部が千葉市指定文化財にするよう要望書を提出した。

イベントでは局舎の設計者である建築家・吉田鉄郎氏のドキュメンタリー上映に続き、元職員、岩佐悦次さんが講演。ミニシンポジウムでは、建築関係者がその重要性を指摘した。

また、地元町内会の役員で「知る会」副代表の高井義信さんからは検見川町内の活動報告があった。既に連合町内会からは3度に渡る局舎保存利活用と跡地活用に關する要望書が出されており、千葉市側は送信所は歴史的な価値が高いと認める一方、保存利活用や跡地活用に向けた課題も数多く残っているとの見解が示された、と話した。

最後に「知る会」としては千葉市長らに対する独自の要望書案を提示し、満場の拍手にて承認された。



公民館道場は80人が詰めかけ、熱気にあふれた

周辺環境の整備を

文化財にふさわしい町に

要望書内容

本会は昨年8月、検見川無線送信所跡(千葉県千葉市花見川区検見川町5の2069)の保存と利活用を図るため、その歴史的、建築学的な理解を深めるとともに、その価値を広く周知させることを目的に発足した市民団体です。

同年10月27日には、建築専門家、送信所OBを招いてのイベントを市内で開催し、市民、専門家、市議らが多数参加し、新聞、テレビなどでも報じられました。また、今年2月23日、8月30日にも同様のイベントを開催しています。千葉市が3月15日までに行った地域文化財の募集に際しては、同送信所の資料を提示し、5月には口頭にて同送信所の保存を要望しております。

千葉市が所有する旧検見川無線送信所局舎は日本の建築史的にも、産業史的にも貴重な建築物です。設計は「東京中央郵便局」「大阪中央郵便局」などを手がけた大正・昭和前期を代表



市への書類を準備する「知る会」メンバー

する通信省官繕課の建築家・吉田鉄郎氏(1894年~1956年)。1926年(大正15年)に竣工し、1930年(昭和5年)には日本初の国際放送を成し遂げました。千葉市は第2次大戦中に2度の大規模な空襲に遭い、大正期、昭和初期の建物がほとんど現存しておらず、鉄筋コンクリート造建築物としては市内最古級に属します。本年3月には検見川町連合町内会が送信所跡地の保存、利活用に関する要望書を提出

出。6月には権威ある国際建築団体「ドコモモ・ジャパン」(代表・鈴木博之東京大学大学院教授)が重要モダニズム建築として選定し、さらに7月23日には社団法人日本建築家協会関東甲信越支部などが千葉市指定文化財にするよう要望書を提出しています。このよう重要な建築物である検

見川送信所が壊されるようなことがあれば、近代千葉の発展を伝える重要な遺産を失うこととなります。千葉市では長年、同建物の跡地を「検見川稲毛地区土地区画整理事業」の中で中学校用地として位置づけてきました。しかし、地域文化財の募集結果を報告された3月の市議会では教育

長が「市民の方から登録の要望をいただいております。旧検見川送信所跡地については歴史的な価値を再検証するとともに関係部局と協議してまいります」と発言されています。さらに、6月の市議会では児童の推計値を見ると、「現在のところ、学校建設の必要性はないと考える」との見解を示されました。本会としてはこれを事実上の局舎取り壊し撤回であり、局舎の保存への前進と受け取っております。千葉市に対し、この考えをさらに進め、建物及び跡地を保存・利活用する

ように要望いたします。周辺住民からは生い茂る雑草やゴミの不法投棄などの現状の改善や防犯強化を願う声も上がっております。周辺地域を文化財にふさわしい整備を行い、住民の不安を一掃する施策に取り組んで頂きたいと、重ねて要望いたします。建物は現在、安全管理、治安上の理由から鉄扉にて閉鎖しておりますが、専門家による内部の文化財調査や耐久性に関する調査を速やかにを行い、その結果を市民に明らかにすることもお願いいたします。

全員 送信所残したい

文化遺産宣言アンケート結果

「文化遺産宣言」では出席者にアンケートをお願いしました。その結果がまとまったので、お知らせします。来場者約80人のうち、29人の方が答えて下さいました。ご協力ありがとうございました。

- 「文化遺産宣言」では出席者にアンケートをお願いしました。その結果がまとまったので、お知らせします。来場者約80人のうち、29人の方が答えて下さいました。ご協力ありがとうございました。
- Q1) 知る会のイベントは何度目?
1) はじめて23
2) 2度目3
3) 3度目3
- Q2) どこでイベントを知りましたか?(複数回答)
1) 朝日マイタウン情報12
2) ホームページ、会報、読売新聞 各6
5) 閲覧板4
6) 知人の紹介3
7) オニオン新聞3
8) 公民館のチラシ1
- Q3) 送信所を残したいですか?
保存、利活用を望む29人
Q4) 利活用される場合、希望する施設は?
1) 記念館(メモリアルホール) 16

- 2) 郷土資料館9
3) コミュニティセンター5
4) アート施設4
5) 図書館 2
(その他の回答)
・ 児童館
・ 農業や海の道具を展示
・ 記念館、公民館、交流施設などイギリスのハイドパーク的な公園

- ・ 多目的ホール。カフェ、レストランもあったら
・ 建物の歴史、通信の歴史や吉田氏の生涯や作品を伝えるような記念館
・ 大きく手を加えなくとも使用できる用途が可
・ 我が国、国際通信施設の歴史的な価値を伝える記念館として保存すべき
・ 森林公園

発行元：検見川送信所を知る会

代表・仲佐秀雄

〒262-0026
千葉市花見川区瑞穂2-1-1・20-908
& ファクス 043(276)0444
<http://kenigawaradio.web.fc2.com/>
メール kenigawamusen@mail.goo.ne.jp